

# 第1回 尼崎市総合計画審議会 議事録

日時	平成30年8月17日(金)18:00~
場所	尼崎市役所 北館4-1会議室
出席委員	青田委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、佐藤委員、瀧川委員、久委員、梶岡委員、川島委員、島田委員、原委員、松井委員、和田委員、北村委員、辻委員、川崎委員、酒井委員、綿瀬委員、尾藤委員
欠席委員	稲垣委員、安田委員、原田委員
事務局	稲村市長、森山副市長、御崎企画財政局長、中川政策部長、堀井政策課長、政策課職員

## 1. 開会

## 2. 委嘱状の交付

## 3. 市長あいさつ

## 4. 委員及び事務局職員の紹介

## 5. 審議会条例等

## 6. 会長及び会長代理の選任

- 会長互選（互選により加藤委員を会長に選出）
- 会長挨拶
- 会長職務代理者選任（条例に基づき会長から、会長代理者として久委員を指名）

## 7. 審議

- 傍聴の取扱
- 議事録の公開
- 総合計画の進捗管理について

## 8. 開会

### 【議題1 総合計画の進捗管理について】

(事務局)

(資料第1号、第2号、第2号-2、第2号-3について説明)

(会長)

引き続き委員の皆様には、前回審議のおさらいとなりますが、総合計画の進捗管理が必要という市の課題認識、そして、われわれ総合計画審議会が今年5月に答申しました内容を踏まえるなかで、事務局として、今後の検討の方向性を説明いただきました。

また、これからその具体的な手法を検討していくこととなりますが、これから行っていく

進捗管理が、次期総合計画のパーツになっていくというような今後のロードマップ的な説明もありました。資料第2号-3の4ページに今後の課題が記載されています。「①総合計画は市の最上位の計画であり、その進捗管理に当たっては分野別計画との整合性を意識しながら進める必要がある。②尼崎市の総合計画の特長の一つは、市民・事業者の役割を示し、めざすまちの将来像を誰もが共感できる「ありたいまち」とし、協働の観点を非常に意識した計画となっている。そのため、進捗管理に当たっても、協働の視点を意識しながら進める必要がある。③審議会を常設化し、計画の進捗管理を継続的に実施するに当たっては、計画策定と同様に多くの業務負担が新たに発生することを踏まえ、そのプロセスが過度の負担とならないように意識しながら進めるとともに、市は十分な体制を整える必要がある。④進捗管理に当たっては、次期計画策定も見据えるなかで、特別委員や臨時委員など、柔軟に、幅広く意見聴取できる体制を整える必要がある。」

初回ということで、改めて、皆様にご意見を頂戴したいと思いますが、今、事務局から説明のあった検討の方向性や、どんなことでも結構ですので、ご意見を頂戴できますでしょうか。

(委員)

前回の専門部会で進捗管理を議論してきましたが、難しいという話が多くでました。本日も説明していただいたそれぞれの分野別計画については、その分野別計画の審議会等において議論されていると思います。本日出席委員の学識経験者はおそらくその審議会等において議論をし、PDCAをまわしていると思います。分野別計画においてはその審議会等にお任せの方がいいのではないのですか。また、パブリックコメントも実施していると思うので、協働はできていると思います。総合計画審議会においては柱になっています4つの「ありたいまち」の評価を重点的にしていきたいと思いますので、分野横断的な視点で審議会は評価をする必要があると思います。分野ごとの連携ができているかなど分野を越えた議論をしたいと思います。

4つの「ありたいまち」は抽象的なので、データ等を活用して議論していくのかという手法についても議論したいと思っています。

(委員)

尼崎市はここ50年間で大きく変わり、良いまちになったと思いますが、お年寄りが多くなった印象があります。悪いことではないですが、活気が減っているのかなと思います。そういうことも含めて4つの「ありたいまち」をどのように考えていくのかなとは思っています。仮に大きな災害があったとしても、衰退せず飛躍できるようなまちになって欲しいと思います。

(会長)

ここ最近JR尼崎駅周辺が関西本当に住みやすい街ランキングで1位になったりまちは大きく変化しています。

(委員)

進捗管理の柱の1つとすれば、さきほど事務局から説明がありました「市民・事業者」による点検があるかと思っています。市民の点検においては例えば障害のある方やLGBTの方な

どの意見を踏まえた点検が必要だと感じています。

資料第2号-2の具体的な検討事項（案）ですが、進捗管理手法については、常時検討とありますが、「市民・事業者」による点検の方法は難しいと思いますが、この資料には記載がないので、今後検討をお願いします。

（委員）

「市民・事業者」の評価の話があったと思いますが、なにを明らかにしたいのかを決める必要があります。例えばネットアンケートの活用などと記載していますが、どのように考えているのですか。

（事務局）

ネットアンケートの活用ですが、議論を容易に進められるようにするための活用を考えており、ネットアンケートで完結しようとは考えておりません。

（委員）

課題を抽出する際にはどのような手法がいいのか今後議論した方が良いと思います。当事者に近いところで話を聞くなどした方がよりニーズが把握できるので良いかと思います。次期総合計画については、他の自治体との連携においても不可欠だと思いますので、いち早く取り組んでいきたいと思います。

（委員）

分野別計画の進捗管理においてもターゲットを決めて考える必要があると思います。専門性の高い「福祉」・「教育」などについては、お任せするなどターゲットを決める必要があると思います。

（委員）

4つの「ありたいまち」を今の小・中学生は知っているのかなと思います。これを知らせるためにはどのようにすればいいかという議論も必要だと思います。知らないことを評価することはできないと思うので、そのあたりも課題と思います。

（委員）

連携が多くあり、事務局が大変だなという印象を受けました。市民に意見を聞くにあってもさきほどの話でありましたが、関わりがある人に聞いた方がより具体的な意見がでくると思います。アンケートにおいてもイベントなどに来られた方に直接話を聞くなどした方がいいのではと思います。

（委員）

総合計画という柱があるので、それを柱として分野別計画と連携ができるような形ができればいいのですが、それは今までの議論において難しいとありましたが、専門的な委員が多いので、多様な視点の考え方を織り交ぜ解決できればと思っています。

(委員)

他の審議会にも参加をさせていただいておりますが、まだ連携（情報共有）ができていないと思いました。他の審議会の内容が見えないなと感じました。情報共有をするしくみができれば、よりよくなるのかなと思いました。また、難しいと思いますが、他の自治体のものも吸収できるような形ができればいいと思っています。

(委員)

分野別計画との整合性の議論が出ていますが、委員が述べたように分野別計画の審議会においてはより深い議論をしていると思いますので、そこは任せた方が良くと思います。総合計画のなかに指標があると思いますが、この指標をどのように活用するかなど点検方法についても議論が必要だと思いました。

(委員)

市民の人にこのような難しい内容が伝わるのか不安です。尼崎市は「産業都市」でいくのか「文化・観光」でいくのかという焦点を縛って議論したいです。まずは市の大きな方向性をアンケートなどをもって聞くなど、方向性をもっと明確にしたほうが良いと思います。市民の人に方向性が決まる前にもっと意見を聞いた方がよりよくなります。

(委員)

総合計画と分野別計画は整合性はとれていると思っていましたが、ばらつきがあると聞きましたので、本日の事務局の説明を受け、これを進めていくことがいかに難しいのかが読み取れました。また、総合計画には指標がありますのでその部分はきちんと評価したいが結果として達成できたではなく、そこまでのプロセスの方が大切だと思っていますので、指標に左右されるのではなく、プロセスを大切に評価方法についても議論した方がよいと思います。

(委員)

ファミリー世帯の定住・転入促進という言葉をよくお聞きしますが、なかなか実現が難しいと思います。私は実現していないということはその課題に対して動けていないのだと思います。例えば、住みよいまちの一番として「子育てしやすいまち」だと思います。また、教育を受けたいような環境だと思います。20年前の話になりますが、トレピエでの説明会での話ではありますが、母親の就職を後押ししようという議論で子育てはしんどいという話が多くありましたが、子育てを振り返ったときに「子育ては幸せなことだったと思えるのが理想」というような話をさせていただきました。総合計画も振り返ったときによかったと思えるようなものになりたいと思いますが、全部をすることは難しいので、分野を絞るなどの方がよいと思います。こんなまちにしようというような大きな方針を先に決めるべきだと思います。特に子育て世代にとってよりよいまちになれるようにしたいと思います。

(委員)

資料第2号に総合計画と分野別計画の連携強化の基礎資料とするため、平成30年7月時点の本市における分野別計画の策定状況を調査した結果、調査時点で今年度策定予定のものも

含め、82本の計画があると記載があり、また審議会等の計画策定への関与ありが38本とありますが、これは他市と比べて多いのですか。

(事務局)

比較をしたことがないので、わかりません。

(委員)

市の総合計画は市のグランドデザインだと思っています。そのグランドデザインである総合計画を市民に理解してもらう必要があると思います。将来市民が希望を持てるような総合計画を策定する必要があると思います。そういったようになるのかという検証をする必要があると思います。現実問題貧困など尼崎が抱えている問題は多くあると思いますので、そういったことをいかに解決できるかだと思っています。

基本は市民に希望を与えられるような総合計画を作っていきたいと思っています。

(委員)

地域で活動をしていて思うことですが、地域の人はずごく疲れています。資料第2号に「市民・事業者に期待する役割」の点検等を市民等が負担に感じず、楽しみながら実施できる手法が理想と記載していますが、迷惑なのではないのですか。市民の活動の場が年々減ってきていますので、「住民自治」が重要になってきています。その中でいかに活動してくれる人たちを見つけるのが課題かと思っています。それがまちづくりの根幹かと思っています。

(委員)

かつての総合計画はこのまちをこんな風開発しますというハード的なものが多かったと思います。その後、時代が変わり福祉中心というようにもなっていました。

市民意見聴取ですが、プランが既に確定しているなかでの実施が多く、意見を聞いても反映されないといったことが多く見られます。そういうことについてどういう風にすればいいのかという議論もしたいと思います。既にプランが確定する前に議論できるようなしくみづくりが大切だと思います。

昨年度から決算審査の仕方も変えました。決算審査をして次年度の予算に意見をする決算委員会というような形にしました。昨年度市は、学校の空調機器を全て整えるという方針を立てていましたが、実はすでに古かったものについては、整備しないなど問題があり、市の方針では中学校給食等があり先送りというような流れになっていましたが、決算委員会で意見を言ったことによってその空調整備についても予算に反映はされました。そういったことについては、意見を言わせていただきますが、まちづくりの大きな方向性については審議会で議論をしたいと思っています。私たちは今回参加したあと、次の出席が平成31年3月とありますが、方向が進む過程などの資料提供をお願いします。

(会長)

総合計画のあり方についても形が大きく変わってきています。国の方ではビジョンというような表現をされることもあります。厳密に作れば作るほど変更が難しいことになりそうですので、大きな方向性を中心に記載すべきだと思っています。

(委員)

前期計画を策定した人はすごく大変な思いをしたんだと思いました。総合計画が誰のものとなったときに市民一人一人のものだと思っています。市民の人がいかに総合計画を知るのかということが最大の課題だと思います。市民説明会に参加させていただきましたが、参加者が少なかったことがとても残念です。発信することが大切だというふうに思いました。ラインを活用して総合計画の周知をすればと提案をさせていただきましたが、ラインについては、イベント等についてしか対応していないという答えをいただきましたが、市民が常に目にする機会を作っていただくようなくみを作ってほしいと思います。

また、総合計画の「はじめに」に記載しています「尼崎市のめざす方向を示した、この計画をよりどころに、みんなが互いに協力し、工夫しながら、まちづくりに取り組んでいきたいと考えています。」という素晴らしいことが記載していますが、総合計画をHPからダウンロードするには容量が大きすぎるので、いくつかに分けて掲載してほしいです。市民は自分達が住んでいるまちは好きだと思いますので、この総合計画を今後は発信していくことが大切だと思いますので、今後私も広めていきたいと思っています。

(委員)

大学では全学部の評価をさせていただいております。それぞれの学部の内容が集まってきてそれを一人の人間が一つの章を担当しています。非常に大変な作業ではありますが、それをすることによって全体が見えたり、各学部の記載内容がずれているかなどのが把握できます。この総合計画審議会においても全体のことを共有し、議論していくことによってうまくいくかと思えます。再度大学を例にして言いますと、全ての先生が方針の通りに動いているはずですが、そこがまだ共有できていない部分があります。個々がバラバラではなく一つの方針に基づいて動いていくことについても重要なことです。尼崎市においても全ての事業を全ての職員が動かしていますが、その全ての事業が総合計画に基づいて動いているのかということのを改めて確認することも重要だと思います。この計画を進めていくにあたっては、市民も一緒に進めていかなければならないので、市民45万人においても共有する必要があります。そこを改めてどういうやり方をすれば、共有ができるのかなども検討する必要があります。

まち・ひと・しごと創生総合戦略に携わっている委員の方もいるかと思いますが、この総合戦略においても毎年各事業規模で評価をしており、また基本目標規模でも評価をしています。そこではいくつかの指標を併せてこの目標がどこまで到達しているのかを評価していますので、そういったやり方も参考にしていけばいいかと思えます。総合戦略の場合は総合戦略の中で一番大きな目標の指標があると思いますが、総合計画の4つの「ありたいまち」については一つ一つに指標がぶら下がっていないので、この「ありたいまち」を代表するような指標を今後時間をかけて考えていく必要があると思います。

今年で4回目の開催がありました「みんなのサマーセミナー」ですが、毎年参加していますが、すごく盛り上がっています。これを見た他市の方は「尼崎市ってすごいよね」という声をよく聞きます。うちの市でもやりたいといった声もあります。参加者は延べ約5,000人ですが、これは厳しく言いますと約100人に一人しか参加していません。これについても少ないという評価をするのかもしくは、他市の方が参考にしたいという声などを評価するかで

考え方は変わってくると思います。評価の仕方によって考え方が左右されますので、審議会においても評価の考え方を今後委員の皆様と議論し、考えていきたいと思っています。

(会長)

「情報共有」・「協働」が改めてキーワードであるということが委員の皆様の意見を聞いてわかりました。総合という言葉に対して、多くのことが記載された計画になっていますので、委員がおっしゃられましたように尼崎の展望を示しているのか、どこに重点を置くのかなど今後議論していく必要があります。

進捗管理の方法等について踏み込んで議論する必要がありますので、後期計画を策定した際と同様に学識経験者で構成されます専門部会で議論をしたうえで、総会において委員の皆様にご提案させていただくという形でよろしいでしょうか。また、今後の審議の状況に応じて他の部会等を設置をする可能性などもありますので、そのあたりも柔軟に対応をしていただきたいと思います。

## 9. 閉会

以 上